

組合せとなってしまう結果を出すことができなかった。



ラグビーと人生

昭和51年度 熊谷工業高校卒 柳沢 康広

この度、県営ラグビー場が竣工する運びとなり、誠におめでとうございます。地元関係者の一人として、大変喜んでおります。熊谷市に、公共の施設が誕生したことは、より人のふれあい、また、町の活性化につながり、大変よいことだと思います。さらには、熊谷の、埼玉のよい所が、全国へ広がることを願っています。関係者の方々には、本当に感謝したいと思っております。

私はラグビーをやっていながら、ラグビーについて書くことが、最も苦手です。ラグビーをやる事が良い事にちがひありませんが、あまり強制はさせたくありません。自ら始めたくなくなった時がよいと思っております。レクレーションではないし、基礎体力がもっとも必要だからです。

私が高校一年の夏合宿でした。どうにか最終日までもったのですが、その次の日、体重が思いがけないほど落ち、手も足も棒のようになってしまいました。私はどうしたんだろうと、自分自身でも、信じられないほどでした。小さい頃から、比較的、体力はあった方ですが、それでもラグビーをやるには、全く体が出来ていなかったのです。この合宿を過ぎて、やっと一年生どうしの試合が出来るようになりましたが、レギュラークラスとの試合は、とても無理のようでした。私は体も小さく、ラグビーも知らなかったのです、大きい人に勝てるとは、思ってもいませんでした。しかし、初めから試合をやっていたら、大怪我をしていたかもしれません。大した怪我もなく、指導者のおかげだと、感謝しています。

しかし、私も出来る、またいろいろな体格の人も出来る。これが、ラグビーの一つの良さだと思います。

ラグビーは、全身を使った気持ち良さも、良い所です。なにしろ、相手と体をぶつけあい、一つのボールを奪いあうのです。その為に走り、キックし、体がだめなら声を出し、指示することもし

ます。やる気なら、いくらでも出来るし、終わったあとに充実感も残るでしょう。

トライすることが目的ですが、トライをゴール前で阻止するのも、トライに値する価値があるでしょう。以前試合中、味方の防禦網を抜けてきたプレーヤーと、一対一になり、これをタックルでタッチの外へ押し出した事があります。味方にも喜ばれ、自分でも、やったという気持ちが大きかった事はよく覚えています。

社会人では、試合後にミーティングが多くあります。お互いに、力を出し尽して競った後のビールがうまい。そうした交流も、ラグビーの特徴であり、人とのつながりも、自然と出来ていました。

私は試合があると、一週間前から、試合の事を考えてしまいます。ラグビーは格闘技であります。気持ちを整理し、まず自分に勝つ事です。相手もそうして向かってきますし、生半可な精神では、試合でも力は出しきれませんし、試合から得るものもないかもしれません。

しかし、そうした鍛錬のおかげで、集中力や精神力、忍耐力などがついたように思います。現在、会社においても、色々な問題がありますが、このような事にも、その力は、また生かされているようにも思います。

ただ一つ、ラグビーをやっていて、社会とのギャップをつくらないように注意していくのがよいと思っております。

最後に、施設に負けないよう、内容の充実を計り、益々の御繁栄を祈念し、また、りっぱなラグーマンが誕生する事を期待しまして、おわりにしたいと思います。

昭和52年

※新人戦

準決勝 熊谷工 14 - 8 浦 和
狭 山 16 - 8 松 山
決勝 熊谷工 42 - 10 狭 山

※学徒大会兼関東大会予選

準決勝 熊谷工 38 - 16 和 光
行田工 23 - 17 浦 和
決勝 熊谷工 26 - 18 行田工

※第25回関東大会 (於宇都宮)

熊谷工 82 - 4 生 田 (神奈川)